

基本目標（旧：施策の大綱）（案）

1. 質の高い学びで次代の担い手と文化を育むまち（教育・文化）

【調査からわかること】

- ・町民アンケート調査では、松田町の地域資源を活かした体験学習など、座学に留まらない多様な教育が求められています。
- ・また、生涯学習センターをはじめとする学習・文化施設の老朽化が進んでおり、誰もが快適に利用できる環境の整備・充実が求められています。

【方向性】

- ・子どもたちが安心してのびのびと学ぶことができる教育環境を整えるとともに、町民一人ひとりが地域の歴史や文化、風土に親しみ、ふるさとへの愛着や誇りを育める社会を目指します。
- ・本町の多様な地域資源を活かし、文化・芸術やスポーツ・レクリエーションに親しめる機会や環境の充実を図ります。

2. 誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉）

【調査からわかること】

- ・町民アンケート調査では、将来も住み続けたいまちの姿として、高齢者が安心して暮らせるまちが求められています。
- ・また、子育て世代が安心して子どもを産み育てられる環境や、子育てしやすいまちづくりへの期待が高まっています。

【方向性】

- ・高齢化や障害の多様化、子育て世帯のニーズの変化をなどに対応し、誰もが健康で安心して暮らし続けられるよう、町民の視点に立った医療・福祉の環境づくりを進めます。
- ・身近な地域における人や地域のつながりやふれあい、助け合いを活かし、みんなが安心して暮らせる社会づくりを進めます。

3. 備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心）

【調査からわかること】

- ・町民アンケート調査では、「消防・救急の充実」が最も満足度の高い施策として挙げられている一方、「防災対策の充実」や「消防・救急の充実」は特に重要度が高い施策として挙げられています。
- ・団体アンケートやタウンミーティングでは、消防団をはじめとした災害時や緊急時に対応する団体の人員の確保が課題として挙げられています。
- ・また、事故や事件、災害などの頻発化を背景に、町民の防災・防犯の意識が高まっています。

【方向性】

- ・次期計画では、新たに「安全・安心」を1つの柱として位置付けます。
- ・自助・共助・公助の連携を強化するとともに、防災・防犯・交通安全などの取組を推進し、町民一人ひとりが備え、互いに支え合いながら安心して暮らせる地域づくりを進めます。

4. 持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤）

【調査からわかること】

- ・町民アンケートでは、今後力を入れるべきまちづくりの柱として「持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち（暮らし・基盤）」が求められています。
- ・施策の評価においては、必要性が高いものの、満足度が低く、最優先で改善が必要な「最優先改善エリア」に含まれる施策数が7つの柱の中で最も多い状況です。
- ・中学生アンケート調査では、大人になっても住みたいと思えるまちとして、居住・生活環境が整ったまちが最も求められています。
- ・町民アンケートやタウンミーティングをはじめとする各種調査において、近隣への交通アクセスの利便性が住みよさの理由として挙げられている一方、町内における公共交通の不便さの解消や空家・空き地の活用を求める声が多く挙がっています。

【方向性】

- ・町民の誰もが暮らしやすい、強靱かつ持続的なまちづくりを進めます。
- ・松田地区や寄地区の特性に応じた環境づくりを進めます。

5. 賑わいと雇用を生み出し、働きがい育むまち（経済・産業）

【調査からわかること】

- ・町民アンケート調査や中学生アンケート調査では、松田町が住みにくいと感じる理由として、商業施設の不足や買い物の便の悪さが最も多く、8割近くの方が、町の人口を増加させるには、買い物の利便性を向上させることが有効だと考えています。
- ・町民アンケートやタウンミーティングをはじめとする各種調査において、地域資源を活かした新たな観光や特産品づくりなど、多様な活用アイデアが提案されています。

【方向性】

- ・地域資源の磨き上げや新たな観光資源・特産品の創出、起業・創業支援などを通じて地域経済の活性化を図り、豊かな暮らしを支える産業の振興を進めます。
- ・農業・商業・観光が連携し、本町の良さを活かした「稼ぐまち」づくりを進めます。

6. 自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境）

【調査からわかること】

- ・町民アンケート調査や中学生アンケート調査では、松田町が住みよいと感じる理由として、豊かな自然環境に恵まれていることが最も多く挙げられています。
- ・町民アンケートやタウンミーティングにおいて、公園の遊具の老朽化やアクセス性など、公園施設の利便性向上を求める声が寄せられています。

【方向性】

- ・豊かな自然環境の保全及び再生・活用を促進することで、本町の貴重な資源として時代へ継承していきます。
- ・環境との共生の視点に立った暮らしなど、水と緑のまちとしての魅力を高め、誰もが親しみ、憩い、交流できる良好な環境や景観を形成するまちづくりを進めます。

7. みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）

【調査からわかること】

- ・町民アンケートでは、町政への関わり方について、4割以上の方が議員や町、専門家に任せたいと考えていることが分かりました。
- ・町民アンケートや団体アンケートをはじめとする各種調査において、自治会や町内におけるイベントへの参加者の減少など、地域とのつながりやまちづくりへの関心への希薄化が見られます。

【方向性】

- ・限られた財源と人材を最大限有効に活用し、町民のまちづくりや地域づくりに対する意識を高めます。
- ・地域自治の充実を図るとともに、一人ひとりがまちづくりの担い手として活躍できる環境を整え、「ちいさなまちだからこそできるまちづくり」を推進します。

・基本目標（旧：施策の大綱）新旧対象図

